

施工業者様へ 施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上のご注意

- ここに示した 警告 は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
- ここに示した 注意 は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。
いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

この絵表示は、必ず実行して

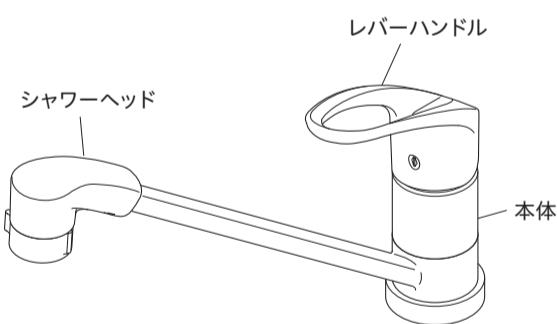
警告	湯水を逆に配管しないでください。 禁止 水を出そうとしても、湯が出てやけどのことがあります。必ず給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。	給湯温度は85°Cより高温で使用しないでください。 禁止 85°Cより高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。	加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等の改造はしないでください。 禁止 器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
	給湯に蒸気を使用しないでください。 禁止 器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。	寒冷地仕様の場合 水抜き栓は水抜き以外の目的で開けないでください。 禁止 水抜き栓をいきなり開けますと高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出で、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。	配管などの解氷のため解氷機をご使用の場合、水栓(給水・給湯管含む)には絶対に通電しないでください。 禁止 通電すると水栓や給水・給湯管が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
	他所の水栓の使用等により水圧変動が起り、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。 禁止 やけどのおそれがあるので、やけどのおそれのないことろまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。		

1 ページ

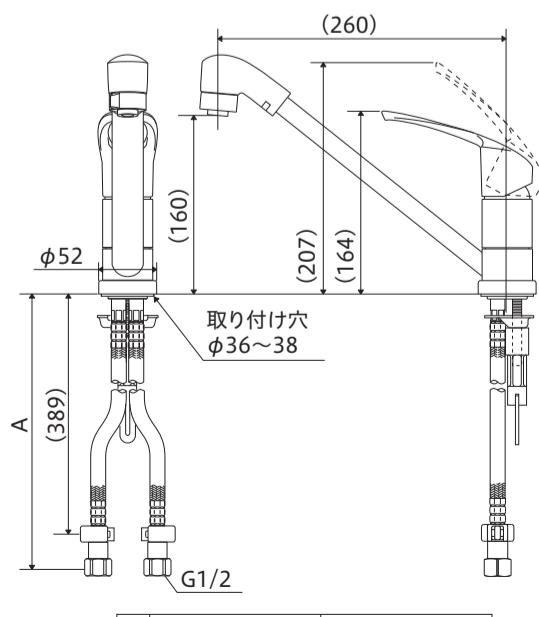
2 ページ

取り付け完成図と各部の名称／寸法図／分解図

取り付け完成図と各部の名称

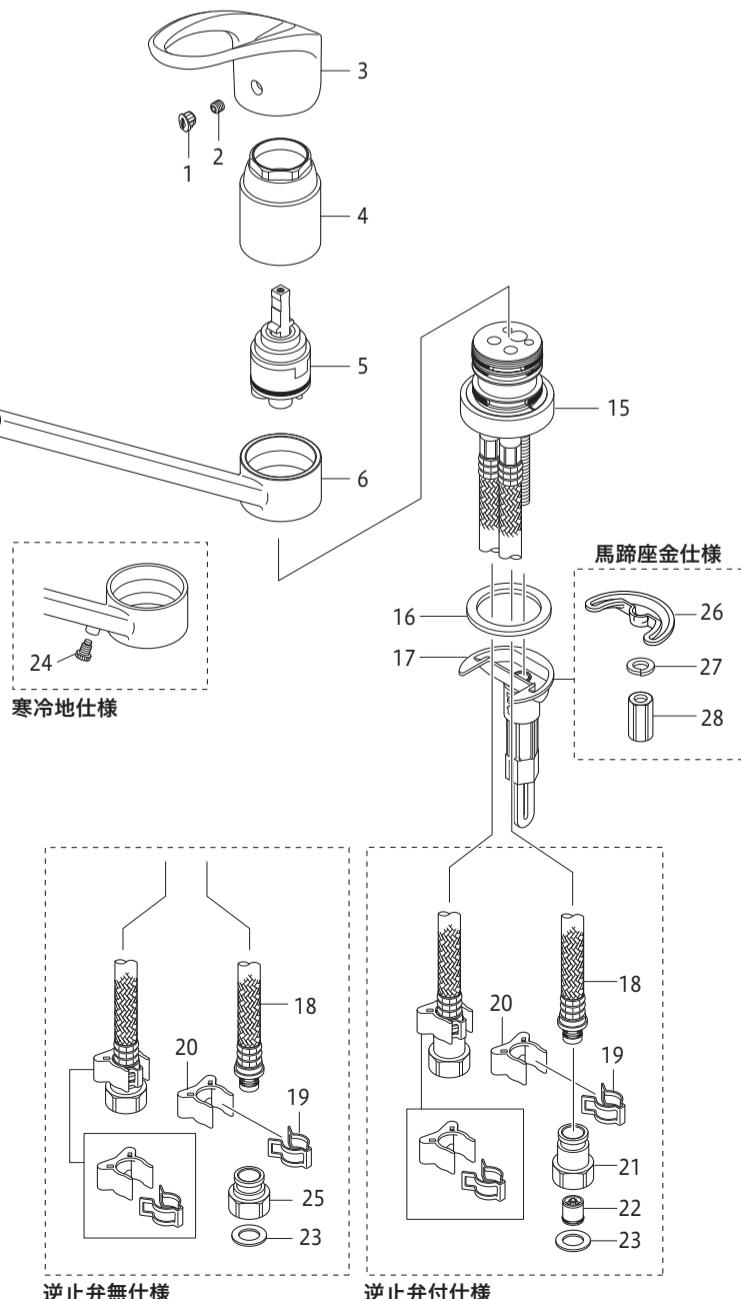


寸法図



分解図

この分解図は製品説明図であり、サービス部品の単位を示すものではありません。



1	キャップ
2	六角穴付止めねじ
3	レバーハンドル
4	固定ナット
5	カートリッジ
6	吐水口
7	ストレーナ
8	シャワーヘッド
9	クリップ
10	パッキン
11	整流器
12	ストレーナ
13	シャワーフェイス
14	吐水口金具
15	本体
16	シートパッキン
17	スピードナット
18	ブレードホース
19	クイックファスナー
20	保護キャップ
21	ジョイント
22	逆止弁
23	パッキン
24	水抜き栓
25	ジョイント
26	本体固定座金
27	ばね座金
28	取付ナット

3 ページ

4 ページ

取り付け手順

1 給水管内の清掃

配管工事後、必ず給湯・給水管内を清掃してください。

2 止水栓(別売)の取り付け

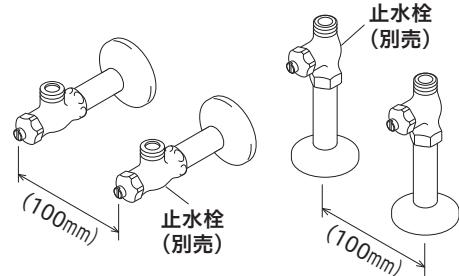
給湯管と給水管の間隔は100mm程度で取り付けます。

止水栓はストレーナ付が最適です。

寒冷地仕様は水抜き栓付止水栓を取り付けてください。

ストレーナ付止水栓

水抜き栓付止水栓

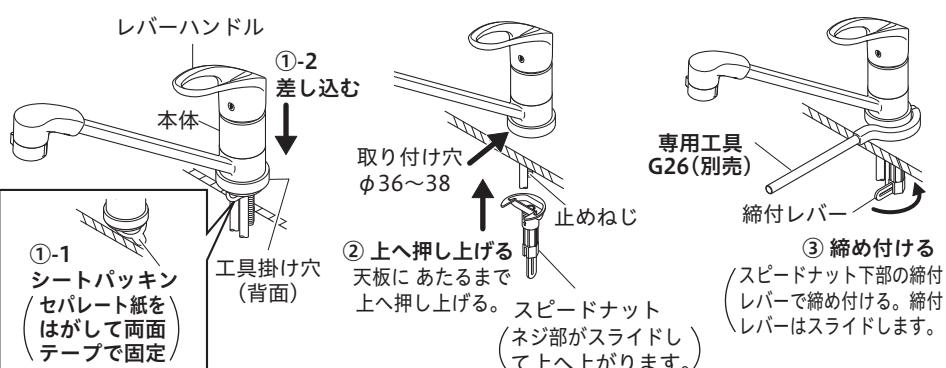


止水栓との接続 (スピードナット仕様の場合)

3 本体の固定

① 取り付け穴周囲の汚れを取り除いた後、本体裏側のシートパッキンのセパレート紙をはがしてから、本体背面の工具掛け穴が真後ろにくるように差し込みます。

② 止めねじの下面よりスピードナットで本体を確実に締め付けて本体を固定します。



【△注意】

- セパレート紙は必ずはがしてください。セパレート紙をはがさず固定した場合、本体が緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
- 専用工具G26(別売)を使用して本体を保持してください。レバーハンドルや吐水口を持って締め付けますと破損し、漏水のおそれがありますので、これらは持たないでください。

5ページ

4-2 【△注意】

ブレードホースはR60以上の大きな曲げ半径になるように曲げてください。鋭角に曲げたり、混合栓根元で曲げたりしないでください。(A図)

急に曲げたり折ったりすると、亀裂や破損を起こし、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。

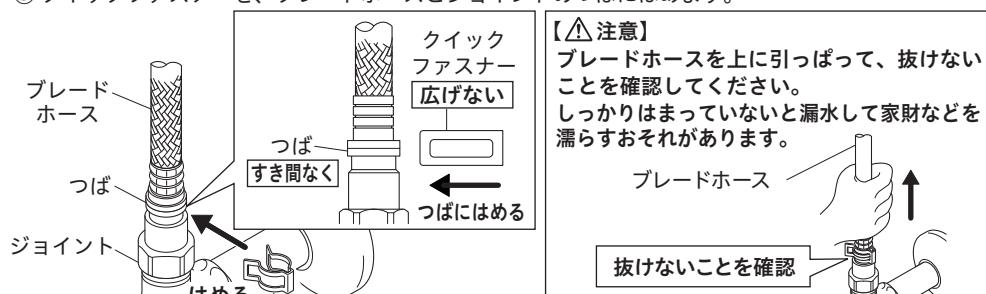
上下戻り配管はやめてください。(B図)

ウォーターハンマーなどでブレードホースが振動した際、屈曲部からの水漏れ発生の原因となります。

ブレードホース同士などへの不要な接触は避けてください。摩耗による外傷で、ホース性能の劣化の可能性があります。

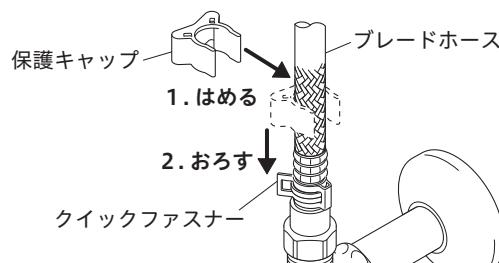
【お願い】ブレードホースは切断しないでください。

③ クイックファスナーを、ブレードホースとジョイントのつばにはめます。



④ クイックファスナーに保護キャップをはめます。

この時、保護キャップはブレードホースにはめてから、クイックファスナーまでおろします。



取り付け後の点検と清掃1

通水確認

【△注意】水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5~6回繰り返し、配管接続部及び水栓から水漏れがないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

シャワーフェイス・ストレーナ・整流器清掃のお願い

シャワーヘッドのシャワーフェイス・ストレーナ・整流器にゴミ等がつまると、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

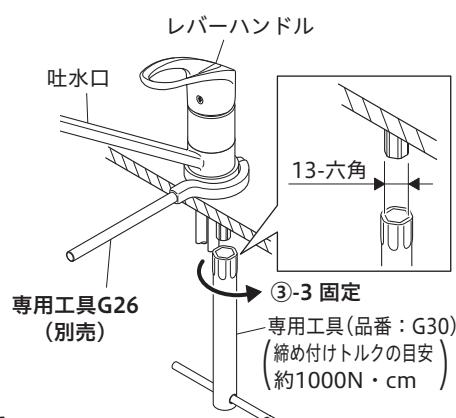
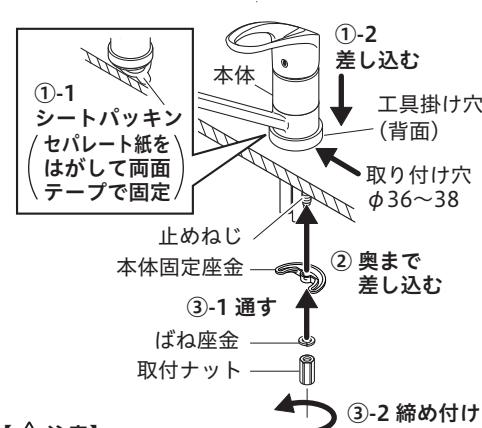
➡ 取扱説明書「日常のお手入れ・保守」参照

7ページ

止水栓との接続 (馬蹄座金仕様の場合)

3 本体の固定

- 取り付け穴周囲の汚れを取り除いた後、本体裏側のシートパッキンのセパレート紙をはがしてから、本体背面の工具掛け穴が真後ろにくるように差し込みます。
- 本体固定座金の穴に止めねじを通して、本体固定座金を奥まで差し込みます。
- ばね座金を止めねじに通し、取付ナットを締め付けて本体を固定します。



【△注意】

- セパレート紙は必ずはがしてください。セパレート紙をはがさず固定した場合、本体が緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
- 専用工具G26(別売)を使用して本体を保持してください。レバーハンドルや吐水口を持って締め付けますと破損し、漏水のおそれがありますので、これらは持たないでください。
- 取付ナットの締め付けは、専用工具G30(別売)で確実に行ってください。しっかりと締め付けられていないと、本体が緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

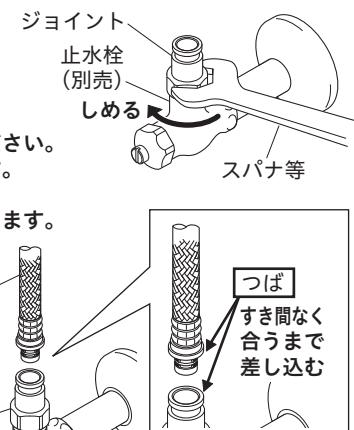
4-1 止水栓との接続 (逆止弁付仕様・逆止弁無し仕様共、接続方法は同じです。)

- ジョイントを止水栓に接続します。

【△注意】

- 接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。締め付けトルクの目安は約2000N・cmです。締め付け不足や締め付け過ぎると、漏水の原因となります。
- 薄肉の接続管(ニップル等)にはジョイントを接続しないでください。パッキンが切れ、漏水して家財などを漏らすおそれがあります。
- 止水栓がしっかり固定されている事を確認してください。固定されていないとブレードホースが抜け、漏水の原因となります。

- ブレードホースのつばとジョイントのつばがすき間なく合うまで差し込んでください。

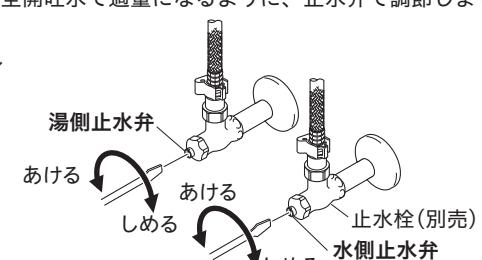
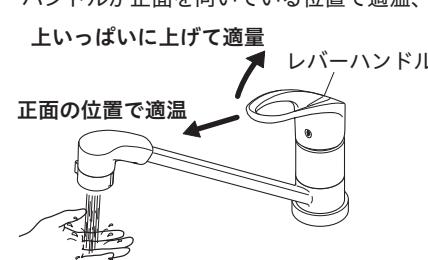


6ページ

取り付け後の点検と清掃2

湯温・流量調節

レバーハンドルが正面を向いている位置で適温、全開吐水で適量になるように、止水弁で調節します。



故障かなと思ったら…

次のような現象は故障ではありません。修理を依頼される前に下記の表に従ってもう一度お確かめください。

現象	お調べいただくところ	処置	参照ページ及び項目
吐水量が少ない	止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	8ページ 「湯温・流量調節」
	シャワーフェイス・ストレーナ・整流器にゴミ等がつまっていますか	シャワーフェイス・ストレーナ・整流器を清掃する	取扱説明書6ページ 「シャワーフェイス・ストレーナ・整流器の清掃方法」
	ガス給湯器と組合せてご使用の場合、能力切換式のものでは適正能力にセットされていますか	ガス給湯器の能力を適正能力にセットする	—
	シャワーフェイス・ストレーナ・整流器は凍っていますか	シャワーフェイス・ストレーナ・整流器にぬるま湯をかける	—
高温しか出ない	水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	8ページ 「湯温・流量調節」
低温しか出ない	湯側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	8ページ 「湯温・流量調節」
温度調節がうまくできない	給湯器から十分な湯がきていますか	給湯器の設定温度・作動を確認する	—
	湯側・水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁で流量を調節する	8ページ 「湯温・流量調節」
	給湯器から十分な湯がきていますか	給湯器の設定温度・作動を確認する	—
吐水が飛び散る	シャワーフェイス・ストレーナ・整流器にゴミ等がつまっていますか	シャワーフェイス・ストレーナ・整流器を清掃する	取扱説明書6ページ 「シャワーフェイス・ストレーナ・整流器の清掃方法」

【△注意】水栓本体内部のメンテナンスをする場合】

【△注意】・修理技術者以外の人は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。

水栓本体内部のメンテナンスは、取扱店・販売店またはKVKK修理受付センターにご依頼ください。

・メンテナンスは、専用工具G26(別売)を使用して本体を保持しながら行ってください。吐水口やレバーハンドルを持ってはずしますと破損し、漏水のおそれがありますので、これらは持たないでください。

8ページ

403631-04